

农畜病理解剖学
文献汇編

吉林农业大学專家病理講習班編

1959

日文編說明

本編收集了如下日文期刊中有关資料

- 一、日本病理学会会志(日病会志) 1924至1929年全年, 1931, 1934, 1936, 1938, 1940, 1941, 1943, 1957全年, 1958年1—4期。
- 二、日本兽医学杂志(日邮志) 1955, 1956, 1957全年, 1958年1—4期。
- 三、日本兽医师杂志(日邮师志) 1953年4—12期, 1954全年, 1955年4—12期, 1956—1958全年。
- 四、兽医畜产新报(兽畜新报) 1955—1958全年, 1959年246—247期。
- 五、陆军兽医团报(陆兽团报) 1913年47—49, 52, 53, 59, 60期, 1914年61—63, 65, 67, 69期, 1915年72, 74, 83, 84, 87, 92, 99期, 1918年104, 105期, 1921年138, 147, 149期, 1922年152, 158, 164, 165, 169期, 1926年207, 209期, 1927年219期, 1929年246, 249期, 1930年253, 259期, 1934年297期, 1936年322—324, 328—326期, 1937年334期, 1938年342—353, 355, 359, 360期, 1939年361—364期, 1940年366, 370, 371—379期, 1941年387, 389期, 1943年405, 406, 412, 411期。
- 六、日本微生物病理学杂志(日微病志) 1937年1, 3, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 15期, 1938年2, 5, 7, 12期, 1942年1, 2, 6, 8期, 1943年1, 2, 4, 5, 8, 9期。
- 七、中央兽医学杂志(中央邮志)。
- 八、日本細菌学杂志(日細志)。
- 九、病毒学杂志(病毒志)

- I - 0001 市岡朝：感電死(馬)の病理殊に流血中に認めらる血小板血栓に就て、因感電死(馬)的病理、特別は流血中发现血小板血栓、中央邮志, 43, 4: 283-292, 1937。
- 〃 2 内海邦輔等：放射線治疗患者に見られる放射線伤害。II. 心脏に対する影响、放射線治疗患者所发生的放射线伤害。II. 对心脏的影响。日病会志, 47, 3: 361, 1958。
- I₂ - 0001 鈴木浩平：火傷の三剖検例に就て。关于火伤的两个剖检例。日病会志, 33: 204-205, 1934。
- 〃 2 佐佐木流道：紫外線の内臓寄生虫及び其卵子に及ぼす影响、紫外光对內臓寄生虫及其卵的影响。日病会志, 17: 212, 1927。
- 〃 3 益本圭式等：Röntgen放射線の血管分布神經に及ぼす影响に就て。倫琴射线的对血管分布神經的影响，日病会志, 24: 342, 1934。
- 〃 4 商泉正等：X光線の造血性器に及ぼす影响の組織学的研究。关于X光线对造血性器的影响的组织学研究。日病会志, 18: 161, 1928。
- 〃 5 冲津久良：超音波、各種血球ニ及ボス影响ニ就テ（第一回报告）人血球及ヒ哺乳类血球を以テスル実験。超音波对各种血球的影响（第一回报告），以人血球及哺乳类血球进行实验。日微病志, 31, 12: 1578, 1937。
- 〃 6 冲津久良：超音波ノ各種血球ニ及ボス影响ニ就テ（第二回报告）、鳥類、兩棲類及ヒ爬虫类血球を以テスル実験。超音波对各种血球的影响（第二回报告，以鳥类、兩棲类及爬虫类的血球进行实验。日微病志, 31, 12: 1604, 1937。
- 〃 7 久保久雄：克山心脏病に就て（續報、特に其の发生原因に关する考察。有关克山心脏病（續报），特别是发生原因的考察，日病会志, 29: 88-99, 1928。
- 〃 8 阿部正一等：稀有なる感電即死の一例に就て、关于罕見感电即死的一例，陆兽团报, 351: 61-66, 1938。
- 〃 9 林正雄：超音波ノ培养組織ニ及ボス影响ニ就テ（第一編）超音波时培养組織的影响。日微病志, 36, 8: 769, 1942。
- 〃 10 和气 严：低圧性虚脱に关する病理知見追补、关于低圧性虚脱的病理知見追补，日病会志, 33: 183-187, 1943。
- 〃 11 市川 收：原子灰による家畜の放射性障碍実験。原子放射性对家畜的障碍実験。日邮师志, 8, 10: 499-504, 1955。
- 〃 12 掘見利昌：牛の寄生性胆結石の成因に关する研究 I. 关于牛的寄生性胆結石的成因之研究 I，兽畜新报, 192: 18-19, 1956。
- 〃 13 武居亮作：高温环境に于ける血漿蛋白の发动について。关于在高温环境时血漿蛋白的变动，日病会志, 46: 3: 340, 1957。
- 〃 14 加藤利子：色素性母斑の組織学的研究 (Pigmented Naevus)。色素性母斑的组织学的研究，日病会志, 47, ,: 57-85, 1958。

- 〃 15 伊藤昭和：白鼠胎生期发育に及ぼすX線照射の影响。無腎症形成不全症の发现を中心として——，X線照射对白鼠胚胎期发育的影响。——以無腎症及肾形成不完全的发育为中心——。日病会志，47，2：182-202，1958。
- 〃 16 元純郎：アルブミー注射によるラツテ蛋白尿の実験的研究，由于注射白蛋白引起白鼠蛋白尿的実験的研究。日病会志，47，1：86-106，1958。
- 〃 17 松岡理等：放射綫物質による家畜の障碍に关する基础的研究，I.PHによる内部照射の障碍[1]PHの吸收，排泄分布并脏器被照射綫量について。关于由于放射性物質而引起的家畜障碍的初步研究，I. 关于由于PH而引起的内部照射的障碍[1]PH的吸收，排泄，分布以及脏器被照射綫量。日邮志，20，4：151-156，1958。

- I₃-0001 犬の過敏症“ショウク”ニ干ける血液の变化。狗的过敏症休克的血液变化，中央邮志，37：802-803，1924。
- 〃 2 赤星幸次郎：血清及ワクチンの家兔脏器に及ぼす影响。血清及疫苗对家兔脏器的影响。日病会志，16：508，1929。
 - 〃 3 立花次郎：免疫学的体外組織培养研究，日病会志，15：49，1925。
 - 〃 4 德光爱福：免疫体トホルモントノ关系，抗体和激素之間的关系，日病会志，16：207，1926。
 - 〃 5 谷口健康等：実験的過敏症ショウクに干ける肝脏の意義に就て。実験的過敏性休克时，肝脏的作用的研究，日病会志，17：202，1927。
 - 〃 6 赤星幸次郎：血清及びワクチンの家兔脏器に及ぼす影响。（第二报），血清及疫苗在家兔脏器的影响，（第二报）日病会志，17：266，1927。
 - 〃 7 小木謙太郎：性質を異にする病態組織相互間の关系，癌腫と結核。病態組織の性質不同的組織之間の關係，癌腫和結核。日病会志，18：544，1928。
 - 〃 8 尹日善：ホルモンとアナフィラキシーとの关系，激素与过敏反应的关系。日病会志，18：274，1928。
 - 〃 9 秋山静一：家鶏肉腫の免疫学的研究，家鶏肉腫の免疫学的研究。日病会志，21：807-811，1931。
 - 〃 10 北野礼同等：組織の細菌に対する反応実験，組織對細菌的反应実驗。日病会志，24：467，1934。
 - 〃 11 吉野茂美：ホルマリーン类の白鼠皮下注射による血液象并に注射局所の变化に就て。关于因给白鼠皮下注射醛类所致之血液象及注射局部的变化。日病会志，24：221，1934。
 - 〃 12 佐藤保雄：神經口的反复蛋白注射动物の内脏器变化に就て。关于神經口的反复注射蛋白，在动物內脏器官发生的变化，日病会志，24：293，1934。
 - 〃 13 渡辺田郎：諸種の実験的疾病に干ける家兔組織球の食喰能の変化に就

- て。各種実験性疾患对于組織球の吞噬能力の変化。日病会志, 24: 277, 1934。
- I. -0014 代田完藏等: 过敏症に対する食餌の影響, 飼料(食餌)对过敏症的影响。日病会志, 26: 103, 1936。
- 〃 15 攻田丈夫: 異種蛋白の組織銀反応に及ぼす影響, 異种蛋白对組織銀反应的影响, 日病会志, 26: 106, 1936。
- 〃 16 金 壽: ビタミン A.B.C. と過敏症, 維生素 A.B.C. 与过敏症, 日病会志, 26: 105, 1936。
- 〃 17 尾作文雄: 各種疾患に于ける肋膜の病理学的研究, 肋膜的各种疾患的病理学的研究, 日病会志, 28: 371-372, 1938。
- 〃 18 濱崎幸雄: 細胞核の病理学(第二報) 研究方法の批判及び系統を就て, 关于細胞核病理学(第二報) 研究方法的批判及系統化, 日病会志, 28: 1-8, 1938。
- 〃 19 曹永勝等: 犬に于ける“ イ トリ ” の醣酵に於ける研究。陆兽团报, 351: 12-36, 1938。
- 〃 20 高山武藏: 酸塩基平衡による甲状腺アレルギー(Alleigie)性変化に及ぼす影響に於ける実験的研究, 关于由酸鹼基平衡所引起甲状腺变态反应性变化的實驗性研究。日病会志, 33: 137-138, 1943。
- 〃 21 何合应: 抗元抗体反応に於ける研究第一報。关于抗元抗体反应的研究, 第一報, 日細誌, 11, 5: 417, 1956。
- 〃 22 海外文献抄-大島-: B-Naphthylamin (B-N) 处置マウスのアレルギー性アーナフィラキシー性所見。B-Naphthylamin (B-N) 处置小白鼠的变态反应性过敏性所見, 兽畜新報, 195: 42, 1956。
- 〃 23 后藤守等: Radioisotope, Isotope 标識免疫血清の生体内分布。放射性同位素, 同位素标識免疫血清的生体内分布。日病会志, 46, 3: 313, 1957。
- 〃 24 山極三郎等: 馬の過敏性皮膚炎の組織发生学的研究 I, 馬の過敏性皮膚炎の組織发生学的研究 I, 陆兽团报, 240: 3-12, 1958。
- 〃 25 江口秀雄: 器内血管形成の立体病理学的研究, 器内血管結構的立体病理学的研究。日病会志, 47, 3: 323-358, 1958。
- 〃 26 松 岡等: 抗原抗体反応に於ける細胞学的研究。关于抗原抗体的反应細胞学的研究, 日病会志, 47, 3: 387, 1958。
- 〃 27 渡邊漸等: I の微量頻回投与の長期影响について。I 的微量頻次投与的長期影响的研究。日病会志, 47, 3: 363, 1958。
- II. -0001 藤田健次郎: 馬ニ于ケル稀有ノ膀胱外結石, 馬稀有的膀胱外結石, 中央郵志, 18, 3: 8-10, 1958。
- 〃 2 片 淡: 各種鹽類注射ノ血液類脂肪量ニ及ぼす影響ニ就テ, 关于因注射各种鹽类而引起血液类脂肪量的影响。日病会志, 64: 673-674, 1924。
- 〃 3 吉州新次郎: 薬灰飼養ニヨル家兔あみろいど変性ニ就テ。关于由于藥灰

飼養而發生的家兔淀粉样變。日病会志, 14: 689-701, 1924。

- II,-0004 森一涼: 脂肪質ヲ以テ飼養セル家兔ノ歯牙及ビ其ノ支持組織ノ変化ニ就テ, 用脂肪質所飼養の家兔の歯牙及其支架組織の変化。日病会志, 14: 650-653, 1924。
- 〃 5 高島克己: 生理的めらん色素形成機轉ニ就テ(其二) 網膜色素形成ノ本態。关于生理性黑色素形成机制(其二)網膜色素形成本态。日病会志, 14: 253-261, 1924。
- 〃 6 鈴木立男: 新陳代謝病ニ就テ。关于新陳代謝病。日病会志, 14: 689-697, 1924。
- 〃 7 一本虎二: 家兔各臟器内石灰含有量及其ノ代謝ニ就テ。关于家兔各脏器内鈣含有量及其代謝。日病会志, 15: 86, 1925。
- 〃 8 小野興作等: 家兔, 腎ニ于ケル, 金屬、鹽類排泄ノ實驗的研究。于家兔腎脏金屬鹽類排泄的實驗研究。日病会志, 15: 68, 1925。
- 〃 9 山脊三: 气管枝纖毛上皮細胞中ノ褐色素ニ就イテ, 关于枝气管纖毛上皮細胞中的褐色素。日病会志, 15: 100, 1925。
- 〃 10 大島福造等: 家鶏めらのーむニ就テ。关于家鶏的黑变病。日病会志, 15: 105, 1925。
- 〃 11 比企能達等: 左心纖維輪及纖維中隔ノ石灰化ニ因スル心脏遮断ノ一例。因在心纖維輪及纖維中隔鈣化引起之心脏遮断的一例。日病会志, 15: 207, 1925。
- 〃 12 木村男也等: 胆汁内石灰排泄ニ关スル實驗的研究, 关于胆汁内鈣排泄的實驗研究。日病会志, 15: 82, 1925。
- 〃 13 吉川次郎: 家兔ニ于ケル實驗的あみちいど変性。关于家兔的實驗性淀粉样変性。日病会志, 15: 96, 1925。
- 〃 14 竹内甲平: 毛发色素ノ发生ニ就テ, 关于毛发色素的发生。日病会志, 15: 107, 1925。
- 〃 15 新海輝: 移植肺ニ于ケル脂肪栓塞ニ就テ。关于移植肺时的脂肪栓塞。日病会志, 15: 90, 1925。
- 〃 16 小山正道: 人类及動物乳汁内これすてりんえするノ出現及消長ニ就テ。人类及動物乳汁中胆脂醇的出現和消長的研究。日病会志, 19: 526, 1926。
- 〃 17 井关包魚: 支那山东省地方ニ流行セル所謂黃病的研究補遺。中国山东地方流行的所謂黃病研究。日病会志, 16: 212, 1926。
- 〃 18 村松 治: 生体内ニ于ケルこれすてりん新陳代謝ノ研究(第五報)魚類ニ于ケル类脂肪ニ就テ。关于生体内胆脂醇的新陳代謝的研究(第五報), 关于魚類ニ脂肪的研究。日病会志, 19: 542, 1926。
- 〃 19 村田宮吉等: 實驗的淀粉样変性。日病会志, 16: 524, 1926。
- 〃 20 高島克己: 所謂めらん色素ニ关スル研究(第三回) 特ニめらんの成

おぶらすと細胞系統ニ就テ。关于所謂黑色素的研究（第三回）特別是关于成黑色素細胞系統的研究。日病会志, 16: 368, 1926。

- II.-0021 鈴木立男: 再び新陳代謝ニ就テ, 关于新陳代謝病的再商确。日病会志, 16: 528, 1926。
- " 22 上山喜明: 脳の病理補遺, 第一報告, 关于飢餓的病理所見的補遺, 第一報告。日病会志, 17: 351, 1927。
- " 23 小出貞亮: 細織糖元質と血液糖量との比較研究。組織抗元和血糖量の比較研究。日病会志, 17: 183, 1927。
- " 24 村松治: 生体内に于けるコレステリン新陳代謝ノ研究, 第六報; 人体寄生虫に于ける类脂肪ニ就て。在生体内关于胆脂醇的新陳代謝的研究, 第六报, 于人体寄生虫的类脂肪的研究。日病会志, 17: 164, 1927。
- " 25 佐野进: 脂肪組織に于けるグリコーゲン形成ニ就て, 关于脂肪組織中糖原的形成問題。日病会志, 17: 176, 1927。
- " 26 原田走次: グリコーゲン研究補遺。糖原研究的补充材料。日病会志, 17: 177, 1927。
- " 27 鈴木立男: 三たび新陳代謝ニ就て, 第三次关于新陳代謝的研究。日病会志, 17: 354, 1927。
- " 28 胜沼精藏: 細織鉄ニ关する研究。关于組織鉄的研究。日病会志, 17: 132, 1927。
- " 29 藤益良知等: 特殊食餌养ナウテの扁平上皮系の変化ニ就て, (第二報告)。特殊飼养白鼠的扁平上皮系的变化(第二报), 日病会志, 17: 484, 1927。
- " 30 川村麟也: コレステリン証明。一新法并に組織重屈折性物質の光学的性状ニ就て, 关于胆固醇的一个新証明方法以及組織重屈折性物質的光学性状的研究。日病会志, 18: 231, 1928。
- " 31 山本隆治: 重曹溶液注射による家兔の淀粉样变性について, 通过重曹溶液注射, 引起家兔淀粉样变性的研究。日病会志, 18: 239, 1928。
- " 32 小山正道: 动物体内外に于けるコレステリン新陳代謝, (第七报告), 昆虫脂肪の形态学的研究, 于动物体内的胆固醇新陳代謝(第七报告), 昆虫脂肪的形态学的研究。日病会志18: 229, 1928。
- " 33 小立眞亮: 細織糖原質の比較研究, 細織糖原質の比較研究。日病会志, 18: 216, 1928。
- " 34 木下良順: グリコーゲン染色ニ就て, (附图第六表), 关于糖原染色(附图第六表), 日病会志, 18: 211, 1928。
- " 35 佐野 进: 脂肪組織に于けるグリコーゲン形成ニ关する研究續報。关于在脂肪組織中形成糖元的研究續報。日病会志, 18: 205, 1928。
- " 36 田中关作: モルモット内耳に发现するグリコーゲンニ就て, 附, 中権神經細胞のグリコーゲン分布(附图第七表), 关于海猪内耳中发现的糖原的

- 研究, 附中樞神經細胞的糖元分布(附圖第七表)。日病会志, 18: 213, 1928。
- II.-0037 赤沼順田郎: 泛发性カルノーゼス(Calinosio)の一部検例, 泛发性鈣鹽沈着の一例剖檢報告。日病会志, 18: 429, 1928。
- 〃 38 野一郎: 石灰新陳代謝に就ての一新知見殊に石灰轉移, 胆石及び實質性甲狀腺腫の发生に關する實驗的研究, 关于鈣代謝的一个新見解, 特別是鈣轉移, 胆石, 尿石, 及實質性甲狀腺腫等的實驗研究。日病会志, 18: 255, 1928。
- 〃 39 新海輝一: 肝器片の肝器内挿入による淀粉样变性に就て, 关于肝器片在腹腔内埋入所引起淀粉样变性的研究。日病会志, 18: 285, 1928。
- 〃 40 奥山美雄: 本邦人胸骨肋骨の生長并に化骨と諸種疾患との相互的関係, 日本人胸骨肋骨的生長以及化骨和各种疾病之間的相互关系。日病会志, 18: 3, 1928。
- 〃 41 櫻井高雄: 血液及び重曹溶液注射によるマウスの淀粉样变性发现に就て, 关于用血液及重曹溶液注射, 引起白鼠的淀粉样变性的发生的研究。日病会志, 18: 237, 1928。
- 〃 42 澤太一: 腫瘍家鶏肝器コレステリンの分布の変化に就て, 腫瘍鶏肝器胆固醇の分布变化。日病会志, 18: 624, 1928。
- 〃 43 比企能达: 糖尿病の実驗的研究, 糖尿病的實驗研究。日病会志, 19: 49-55, 1929。
- 〃 44 菊澤隆尚: 石灰過給による甲狀腺の変化に就て, 由石灰過給所引起的甲狀腺的变化。日病会志19: 69-70, 1929。
- 〃 45 奥山美雄: 痘の本態に關する實驗的研究, 痘本質的實驗研究。日病会志, 19: 289-293, 1929。
- 〃 46 口: 実驗的轉移性石灰化に關する研究補遺, 実驗性轉移性鈣化的研究补充。日病会志, 19: 321-325, 1929。
- 〃 47 小虎一等: 鉄代謝の形态学的研究(其一), 鉄代謝形态学的研究(其一)。日病会志, 21: 66-69, 1931。
- 〃 48 木村哲二: 种种なる脂肪物質に? 飼養せるラッテの肝脏の変化に就て用各種脂肪物質飼養的白鼠的肝脏变化。日病会志, 21: 370-373, 1931。
- 〃 49 正津正: 肝細胞内胆赤素形成, 日病会志, 21: 41-51, 1931。
- 〃 50 枚田宮三等: 淀粉样物質沈着と組織水素イオン濃度との関係, 淀粉样物質沈着と組織氫离子濃度の関係。日病会志, 21: 83, 1931。
- 〃 51 喜富秀雄: 骨髓脂肪に關する研究, 脂肪髓的研究。日病会志, 21: 539-542, 1931。
- 〃 52 国分史紅: 齒牙珐瑯質内に于る脂肪出現に關する知見补充。日病会志, 21: 987-992, 1931。
- 〃 53 薮山清直等: 淀粉样变性肝器と含酸量。淀粉样变性器官和含酸量。日病

- 会志, 21: 76-69, 1931。
- II.-0054 緒方安雄: 鉄症の実験的研究(第一報告), 網状織内皮細胞系統の鉄代謝に対する態度, 鉄症的実験研究(第一報告), 網状内皮細胞系統對鉄代謝的作用。日病会志, 21: 70-73, 1931。
- 〃 55 薄田七: 食餌性中毒症の病理解剖組織学的研究(第二報), 食餌性中毒症病理解剖組織学的研究(第二報)。日病会志, 21: 101-104, 1931。
- 〃 56 小虎一等: 水代謝に関する実験的研究, 关于水代謝的實驗研究。日病会志, 24: 42, 1934。
- 〃 57 石橋松藏等: 結扎性黄疸の際血 Bilirubin 血胆汁よりの吸收は由来するか? 結扎性黄疸时ノ血中的胆綠素是否由胆汁吸收而来? 日病会志, 24: 181, 1934。
- 〃 58 伊東林藏: 淀粉样变性发现与其起源物質の濃度との关系, 淀粉样变性的发现和其起源物質的濃度之間的关系。日病会志, 24: 68, 1934。
- 〃 59 林一: 色素の組織呼吸に及ぼす影响(第一報), 人工アニリシ色素と正常組織, 色素对組織呼吸的影响(第一報) 人工苯胺色素和正常組織。日病会志, 24: 312, 1934。
- 〃 60 佐藤雅雄: 実験的鉄症に据る犬網膜の病理組織学变化的研究。日病会志, 24: 167, 1934。
- 〃 61 拆津时雄: 血中に注射せられたるビリルンの網状織内皮細胞による攝取, 在血中注入胆綠素被網状織内皮細胞的攝取。日病会志, 24: 192, 1934。
- 〃 62 岡本耕造: 組織鉄に関する研究, 关于組織鉄的研究。日病会志, 24: 159, 1934。
- 〃 63 若山雅三: リポイド新陈代謝の形态学的研究追加, コンステリンの飼育の家兔内、外眼筋及心筋に就て类脂質代謝的形态学的研究补充, 用胆固醇油飼喂的家兔内、外眼肌及心肌的变化。日病会志, 24: 34, 1934。
- 〃 64 栗原操: 家兔硬脳脊髓膜の実験的鉄症, 家兔硬脳脊髓膜的實驗性鉄血症。日病会志, 24: 172, 1934。
- 〃 65 厨: 移植肺片に于ける轉移性石灰化に就て, 在移植肺片中的轉移性鈣化。日病会志, 24: 177, 1934。
- 〃 66 森部令次: 水溶性色素の脂肪染色机轉の研究, 关于水溶性色素的对脂肪染色机制的研究。日病会志, 24, 304, 1934。
- 〃 67 森川义金: 肝症と胆赤素, 特に肝症に于ける胆赤素排泄能に就て, 肝症和胆紅素, 特別是在肝脏, 关于胆紅素排泄能力的研究。日病会志, 24: 184, 1934。
- 〃 68 星重治: 実験的脂肪血症の場合の脂肪排泄に就て, 実驗性脂血症时的脂肪排泄。日病会志, 24: 37, 1934。
- 〃 69 鶴 范太: トリニル色素の細菌学的研究, 三 甲 色素的細

- 菌学的研究。日病会志, 24: 308, 1934。
- II - 0070 畠藤宪造: 紫外線のコレステリンの代謝に及ぼす影響, 紫外線对胆固醇代谢的影响。日病会志24: 42, 1934。
- 〃 71 木下良順等: 肝臓グリコグリーンの新染色法との消長に就て, 肝脏糖元的新染色法和它的消长关系。日病会志, 26: 127, 1936。
- 〃 72 武田胜男等: 酸及び鹽基による二十日鼠淀粉样变性的发生に就て, 关于酸、碱, 对小白鼠淀粉样变性的发生作用的研究。日病会志, 26: 149, 1936。
- 〃 73 岡本耕造等: 組織鉄に関する研究(第三報), 关于組織鉄的研究(第三報)。日病会志, 26: 161, 1936。
- 〃 74 高橋草一: 石灰轉移に関する実験的新研究(第一回報告), 有关鈣轉移的實驗的新研究(第一回報告)。日病会志, 26: 121, 1936。
- 〃 75 速 保彥: 血液脂肪の形态学的研究, 关于血液脂肪的形态学的研究。日病会志, 26: 179, 1936。
- 〃 76 森茂树等: 上皮小体と筋损伤时に于ける石灰沈着, 付甲状腺和肌肉损伤时的鈣沉着。日病会志, 26: 468, 1936。
- 〃 77 慈 显: 実験的类淀粉变性的发生条件に関する研究, 殊に异りの飼养食物による相違に就て(第二回報告), 実験的关于淀粉样变性的发生条件的研究, 特別是由于不同飼料的饲养的不同情况的研究。日病会志, 26: 132, 1936。
- 〃 78 村上广子等: 諸種有机色素化合物投与ニ際スル腎器ニ于ける色素ノ沉着ニ就テ。投与各种有机色素化合时色素在脏器內的沉着。日病会志, 32, 2: 126, 1938。
- 〃 79 吉田富三: 肝星細胞の脂肪化に就て, 关于肝脏星細胞的脂化, 日病会志, 30: 188, 1940。
- 〃 80 所安 夫: 広泛なる空泡性細胞変性を示す一例に見出される絲球体の特異なる変化について。在一个呈现泛发性空泡变性的病例中发现的腎小球的特異性变化, 日病会志, 30: 713, 1940。
- 〃 81 小虎 一: 物質代謝機轉の形态学的表現に関する基本的観察, 关于物質代謝机制的形态学表現基本的觀察。日病会志, 31: 731, 1941。
- 〃 82 山口清男: 家兔胆汁内胆色素の研究, 家兔胆汁内胆色素的研究, 日病会志, 31: 431-432, 1941。
- 〃 83 日下寛等: リポフステンの发生に關する細胞核病理学的考察, 关于脂褐素发生的細胞核病理学的考察。日病会志, 31: 15, 1941。
- 〃 84 赤兼 义等: 実験的家兔肺炭粉沉着症知見補遺, 日病会志, 31: 326-332, 1941。
- 〃 85 岩田邦一: 腎臓細尿管上皮細胞に于ける硝子滴変性に關する研究, 关于肾脏細尿管上皮細胞的玻璃滴变性的研究, 日病会志, 31: 375-379,

1941。

- W.-0086 梅黃 煙：心筋の所謂盐基性嗜好性变性に就いて，心肌的所謂鹼性嗜好性变性。日病会志，31: 623-625, 1941。
- 〃 87 木百次 等：感光性色素の生物学的研究（第四报）赤血球感光性色素の光化学作用に依る皮膚，心筋及び肝脏的特異病变に就て，感光性色素の生物学研究（第四报）对由于紅血球感光性色素和光化学作用而引起的皮膚，心机以及肝脏的特異病变，日病会志，31: 62-66, 1941。
- 〃 88 野正男：腸管上皮細胞性脂肪排泄に就て（第三报）兩側腎剔出家兔に于ける腸管上の脂肪排泄に就て。日病会志，31: 410-412, 1941。
- 〃 89 細川正一等：Azur-Eosin 并ニ二三ノ Eosin 鮑合色素鹽分散系ニ依ル Virus 染色ノ研究，附使一々一ヒガ染色液，安定化并ニ得好ナルー依る I, 制法（第 I - II 編）。用天青-伊紅及某些伊紅鮑合色素鹽分散系染色病毒的研究，附使姬姆薩染色液安定化及良好之天青 I 的制法（第 I - II 編）。日微病志，36, 5: 633, 1942。
- 〃 90 太田邦夫：所謂側类淀粉症について。关于所謂側类淀粉症。日病会志，33: 236, 237, 1943。
- 〃 91 木村哲一等：化膿变化に于ける糖元发现に就て，关于化膿变化时的糖元发现，日病会志，33: 238-239, 1943。
- 〃 92 吉岡忠夫：内分泌障碍及び新陈代謝障礙の骨組織に及ぼす影响。内分泌障碍及新陈代謝障碍的骨组织的影响，日病会志，33: 313-314, 1943。
- 〃 93 岩木耕造：諸种金属の生物学的研究（第七报告）マラリア（Malaria）肝脾の組織鉄及び动物界に于ける亞鉛の分布と亞鉛代謝に就て，各种金属的生物学的研究（第七报告）关于疟疾肝脾组织內的鉄以及在动物界的鉻的分布和鉻代謝。日病会志，33: 247-252, 1943。
- 〃 94 江正信：肝脏鉄の吸收性に就て，肝脏鉄的吸收性，日病会志，33: 245-246, 1943。
- 〃 95 鶴岡重雄：渴病の病理組織学变化に就て，渴病的病理組織学变化，日病会志，33: 207-209, 1943。
- 〃 96 外国文献：豚の水泡性发疹，猪的水泡性发疹。日兽师志，8, 10: 504, 1955。
- 〃 97 RoBERTS, M. H. SC. SuLLIVAN(1955); 骨代謝に于ける肝臓の影響 - T. Amer. med. Ass., 159: 1002-1007,
骨代謝における肝臓の影響肝臟对腎代謝的影响 - T. Amer. med. Ass. 159: 1002-1007。兽畜新報, 188: 37-38, 1956。牛島。
- 〃 98 大木与志雄等：傳染性貧血馬に于ける Hemosiderin の性状に关する研究。关于傳染性貧血馬的含鉄血黃素性狀的研究，日病会志，18, 1: 19-23, 1956。
- 〃 99 丹羽太佐衛門等：黄豚について，关于黃猪，兽畜新報，191: 8-13,

1956。

- 〃 0100 海外文献抄-佐藤一, スコットランド北部に于ける(1才未満の羊)の飼養障碍症の発生に関する知見。关于爱尔兰北部 Hoggs 地方(1岁未満的羊)的飮营养障碍症的发生所见, 兽畜新报, 197: 28-29, 1956。
- 〃 0101 海外文献抄-大島一: 家兔に對し靜脈内に注射された鉄の分布並びに運動, 家兔对静脉内注射铁的分布和轉归。兽畜新报, 198: 35, 1956。
- 〃 0102 海外文献抄, FRENDIGER, V. SH. KÖHLER (1955)- 木抄一, 犬の眞性糖尿病の一例に於ける臨床并びに病理組織学的研究-- Schweiz. Arztl, Tierheilk., 97: 188-197, 关于狗的眞性糖尿病的一例之临床和病理组织学的研究, 兽畜新报, 184: 37, 1956。
- 〃 0103 藤原 弘: 黒毛和神の皮下織に发生せる黑色腫の病理学研究, 黑毛日本种皮下組織发生黑色腫的病理学研究。日邮师志, 9, 4: 167-169, 1956。
- 〃 0104 千叶胤孝等: 黒犀の栄養障碍に就いて, 关于黑犀牛的营养障碍。兽畜新报, 204: 3-7, 1957。
- 〃 0105 大守正光等: 糖質代謝の実験病理学的研究(IV) 病態時に于ける糖質代謝と肝机能, 酪类代謝的実験病理学研究(IV) 于病态时酪类代谢和肝机能, 日病会志, 46, 3: 351, 1957。
- 〃 0106 大木与志雄: 馬に于ける Hemosiderosis に關する生化学的研究, 关于馬的含鐵血黃素症的生化学的研究, 日兽志, 19, 2: 53-59, 1957。
- 〃 0107 加藤利子: 色素性母斑に就いて, 关于色素性母細胞, 日病会志, 46, 8: 291, 1957。
- 〃 0108 那須毅等: 筋肉の Lipofuscin と蛋白体変性との关系(筋肉の病理第4報) 肌肉的脂褐質和蛋白質变性之間的关系(肌肉的病理第4報) 日病会志, 46, 3: 342, 1957。
- 〃 0109 本龙男等: 糖質代謝の実験病理学的研究(V) 病態時に于ける糖質代謝と肝組織化学的所見, 糖类代謝的実験病理学的研究(V) 于病态时醣类代谢和肝组织化学的所见, 日病会志, 46, 3, 352, 1957。
- 〃 0110 武内忠男等: 过血糖环境下に于ける細胞内多糖体合成能について。关于过血糖环境下細胞内多糖体合成能力問題。日病会志, 46, 3, 389, 1957。
- 〃 0111 武内忠男等: 組織細胞内多糖体合成機構についての組織化学, 关于組織細胞内多糖体合成机构的组织化学, 日病会志, 46, 3, 380, 1957。
- 〃 0112 海外文献抄-牛島一, 幼若ラツテのビタミン过剩症に于けるカルシウム, 磷, 硝素の代謝, 在幼小大白鼠維生素甲过多症之鈣、磷、氮的代謝。兽畜新报, 204, 36-37, 1957。
- 〃 0113 海外文献抄-坂本一猫のサイアミン缺乏による脳疾患, 兽畜新报, 201, 37-38, 1957。
- 〃 0114 船田 覚: 全身性类淀粉症の一剖検例, 全身性淀粉样変症の一剖検例, 日病会志, 46, 3, 394, 1957。

- II. -0115 島海 純: 广义の硝子様物質の組織染色反应及び蛍光显微鏡による研究, 用广义的玻璃样物质的组织染色反应及显光显微镜研究。日病会志, 46, 4, 563, 1957。
- 〃 0116 奥田 実: 开头実験に于ける家兎脳血管系の色素通过性について。关于开头实验时家兔脑血管系的色素通过性。日病会志, 46, 3, 510, 1957。
- 〃 0117 村信行等: ニコリン不足幼モルモットに于ける栄養病理学的研究, 于胆碱(Choline) 不足之幼江猪时的营养病理的研究, 日病会志, 49, 3, 340, 1957。
- 〃 0118 小野威等: 化膿性炎に伴つて仔馬の筋肉変性の一例, 于化膿性炎伴发的驹馬肌肉变性的一例, 兽畜新报, 222, 11-13, 1958。
- 〃 0119 小河博之等: 鉄代謝に关する研究(第二報), Fe の血球移动に关する網内系細胞の役割, 关于铁代谢的研究第二集, 铁在血球内移动网状内皮系统细胞的作用。日病会志, 47, 3, 462, 1958。
- 〃 0120 小林淳一等: 鉄代謝に关する研究(第一報) Fe の組織細胞移动に关する網内系細胞の役割, 关于铁代谢的研究第一集, 铁在组织细胞移动上网状内皮系统细胞的作用, 日病会志, 47, 3, 463, 1958。
- 〃 0121 大西义久: 类纖維素変性の組織化学的研究, 纤维素样变性的组织化学的研究, 日病会志47, 3, 598, 1958。
- 〃 0122 上田 等: 十胜地方に于ける子羊筋肉変性症について, 十胜地方羔羊肌肉变性症。日兽师志, 1, 11, 30-32, 1958。
- 〃 0123 中院邦彦等: 总胆管結扎家兎に于ける石灰沉着疾患の発現について, 在总胆管结扎的家兔, 发现钙盐沉着病灶的研究。日病会志, 47, 3, 460, 1958。
- 〃 0124 市原 一: 黄胆发生に及ぼす内脏神經肝胆枝切断の影响について(蟻酸蟻酸アルル中毒性黄胆)。内脏神經肝胆枝切断对发生黄胆的影响(蚁酸蚁酸中毒性黄胆), 日病会志, 47, 3, 467, 1958。
- 〃 0125 李 永: 糖尿病性絲球体硬化症の組織发生に关する研究, 关于糖尿病性肾小球性硬化症的组织学发生的研究, 日病会志, 47, 2, 242, 1958。
- 〃 0126 田礼三等: 結締織の糖原及び糖蛋白質代謝(第一報), 結締織的糖原及糖蛋白質代謝, (第九報)。日病会志, 47, 3报461, 1958。
- 〃 0127 武内忠男等: 組織細胞内多糖合成の研究(第Ⅲ報) Brauehing enzyme と(AmyLo 4, 1, 6-transglucosidase) の組織化学的証明手技について。组织细胞内多糖体合成的研究(第Ⅲ报) Brauehing enzyme 和(Amylo , 4→1, 6-(transglucosidase) 的组织化学的证明方法研究, 日病会志, 47, 3, 459, 1958。
- 〃 0128 武内忠男等: 組織細胞内多糖体合成の研究(第Ⅳ報), Amylophosphrylase と Amylo-1,4→1,6-transglucosidase の組織内分布補遺。日病会志, 47, 3, 459, 1958。

- II,-0129 岡本耕造等: 历代糖尿病子孙 Wistar 系マウスの糖尿病自然発症について。关于历代糖尿病子孙 Wistar 系白鼠的糖尿病自然发病报告。日病会志, 47, 3: 474, 1958。
- ✓ 0130 荒木文雄等: 黄疸の各臓器に及ぼす影响, 黄疸对各脏器的影响, 日病会志, 47, 3: 466, 1958。
- ✓ 0131 荒木康雄等: フィブリノイド変性に就て, GOLDBLATT 法を施せる家兎に于けるフィブリノイド変性の病理学的研究, 繊維素样变性的成立机制的研究, 对用 GOLDBLATT 氏法实施处置的家兔的纖維素样变性的病理学的研究, 日病会志, 47, 4: 692-709, 1958。
- ✓ 0132 田英三等: 变性及增殖の代謝病理学的研究 II ラツラ部分切除肝について。变性及增生的代謝病理学的研究 II, 小白鼠肝部分切除的研究。日病会志, 47, 3: 462, 1958。
- ✓ 0133 新井恒人等: TCA Cycle (KREBS) の病理学的研究 (第XXI报) TCA Cycle の代謝障礙と実験的动脉硬化症(8), 心冠状动脉卒化症について。TCA Cycle (KREBS) 的病理学的研究, TCA Cycle 的代謝障礙和实験的动脉硬化症 (8), 心冠状动脉脆化症的研究。日病会志, 47, 3: 458, 1958。
- ✓ 0134 新井恒人等: TCA Cycle (KREBS) の病理学的研究 (第XXI报) TCA Cycle の代謝障礙と実験的动脉硬化症 (7), 兔の大动脉硬化症发现とその酵素活性の消長。TCA Cycle (KREBS) の病理学的研究 (第XX报) TCA Cycle 的代謝障礙和实験的动脉硬化症(8), 兔大动脉硬化症的发现和其酶活性的消长关系。日病会志, 47, 3: 457, 1958。
- ✓ 0135 新井恒人等: TCA Cycle (KREBS) の病理学的研究 (第XIX报), TCA Cycle の代謝障碍と実験的动脉硬化症 (6), 性腺剔出时及び焦性酸投与実験。TCACycle (KREBS) 的病理学研究 (第19报), TCA Tylole 的代謝障碍和实験的动脉硬化症(8), 性腺摘除时及焦性葡萄酸投与試験。日病会志, 47, 3: 457, 1958。
- ✓ 0136 澤敬夫等: 塵(炭)肺の研究, 特に粉塵蓄積過程に就いて 塵肺的研究, 特別是塵未蓄積過程, 日病会志, 47, 3: 485, 1958。
- II,-0001 宮本曉説: 肺胱の脂肪坏死, 胰胱的脂肪坏死, 中央会志, 22, 6: 16-26, 1909。
- ✓ 2 宮本曉説: 肺胱脂肪坏死, 中央会志, 22, 12: 27-30, 1902。
- ✓ 3 佐野延太: 出血“フィラリア”(Filaria, haemorrhagiae)ニ就テ, 关于出血“フィラリア”(Filaria, haemorrhagiae) 陆兽团报, 67: 48-57, 1928。
- ✓ 4 武田勝男: 組織の死后血色素浸染の意味に就て, 特に軟骨組織に就ての研究, 关于组织死后血色素浸潤的意义, 特别是关于软骨的研究, 日病会志, 18: 93, 1928。

- II₂- 5 加藤康吉：固定液の化学的反应と組織の鹽基性との关系に就て，固定液的化学反应和组织的盐基性的关系，日病会志，21：286-287，1931。
- 〃 6 竹内清：炎症灶の組織変質に关する考察，炎症灶組織変質的考察，日病会志，21，314-315，1931。
- 〃 7 阿南光义：Röntgen 照射による血球增多の机轉，因 Rontgen 照射白血球增多的机制，日病会志，28，644-647，1938。
- 〃 8 畠 直一：腐敗性坏疽と重劇なる全身状を并发する創傷三例に就て，关于并发腐败性坏疽和重剧全身症状的创伤三例，陆兽团报，346，48-64，1938。
- 〃 9 四川柳正造等：兩側性弥漫性腎皮質坏疽症に就て，兩側性弥漫性腎皮質坏疽症，日病会志，31，366-370，1941。
- 〃 10 前田幸作等：尸体現象と苏生に关する研究（第三報～死戦期と温度との关系（軀干筋））关于尸体現象和苏生（再生）的研究（第三期）死戰期溫度之間的关系（軀干筋），日病会志，31，79-80，（ 16）1941。
- 〃 11 佐 隆保：死体現象ニ关スル研究補遺第編，死体強直ノ年齢の差異，关于尸体現象的研究补遺第編尸体强直（尸僵）的年龄差異，日微病志，36，1，111，1942。
- 〃 12 佐 隆保：死体現象ニ关スル研究補遺，第6編健康らつて死后脏器内ニ于ケル細菌検索（組織切片標本ニ就イテ），第7編らつて靜脈内葡萄球菌液注射打扑死后脏器内ニ于ヨル細菌検索（組織切片標本ニ就イテ）。关于尸体研究的补遺，第6編于健康大白鼠的死后脏器内検査細菌（用組織切片標本検査）第7編向大白鼠靜脈内注射葡萄球菌液扑杀后于脏器内検査細菌（用組織切片標本検査），日病会志，37，4：245，1943。
- 〃 13 馬場正：病理解剖よりい見る新产兒尸の死因に就て，从病理解剖看的新生兒死的原因，日病会志，33，851-853，1943。
- 〃 14 海外文献抄-松川一：綿羊ニ于ける肝の广范围坏死の病理，关于綿羊肝的广范围坏死的病理，兽畜新报，197，28，1956。
- II₃-0001 多田舍次：卒死馬ノ剖檢。卒死馬的剖檢，陆兽团报，52，45-47，1913。
- 〃 2 木村 廉：溶血現象ノ研究，溶血現象的研究。日病会志，14，391-393，1924。
- 〃 3 上床良彦：血球及唾液腺ニ于ケル余等，銀反应ニ就イテ，在血球及唾液腺的銀反应的研究。日病会志，16，489，1906。
- 〃 4 竹内 清：体液微細絲状体ニ就テ，关于体液微細絲状体的研究。日病会志，16，478，1906。
- 〃 5 木秀二：扁桃腺ノ病理組織学的研究特ニ其骨及軟骨形成ニ关スルノ知見補遺，扁桃腺的病理組織学的研究，特别是它对骨及軟骨形成的作用补充所見，日病会志，16，458，1906。

- II.-0006 伊东武雄：貧血の際に于ける肝小叶中心坏死の本態に就て，关于貧血时，肝小叶中心坏死的本質研究，日病会志，18，388，1928。
- 〃 7 兼松島一等：肝辺部に于ける下虚靜脈全閉塞症の一例，关于肝脏部分下腔靜脈全閉塞症一例剖檢報告，日病会志，18，395，1928。
- 〃 8 多田舍次：卒死馬ノ剖檢，卒死馬的剖檢，陸兽团報，52，963，1931。
- 〃 9 若林春治：初生兒黃疸の本態に就て，初生兒黃疸的本質，日病会志，21，35-36，1931。
- 〃 10 武忠次：堵塞性貧血の发生机轉ニ就て，关于堵塞性貧血的发生机制，日病会志，24，223，1935。
- 〃 11 市井正次等：出血の著明なるの一種の非化膿性脳-脊髓-炎に就て，关于馬显著出血的一种非化膿性脳-脊髓-炎，陆兽团報，336，1-22，1937。
- 〃 12 市川收等：馬の網狀赤血球に於ける知見（第一報）特に流血并骨髓中に于ける網狀赤血球数の健康値に就て，关于馬的網狀紅血球的知見（第一報）着重关于在流血及骨髓中的网狀紅血球数的健康值，陆兽团報，227，19-52，1940。
- 〃 13 木村男也：人間及び動物に就ける靜脈内淋巴球充填に就て，在人及动物的靜脈内淋巴球充填，日病会志，31，226-227，1941。
- 〃 14 大島福満等：出血性梗塞の実驗的研究（第三回報告），日病会志，38，433-435，1943。
- 〃 15 安川星三：低酸素血赤血球过多症に於ける研究，关于低氧紅血球过多症的研究，日病会志，33，408-412，1943。
- 〃 16 金山永済：Schokに於ける血液凝固の变动に於ける研究，在发生休克时对血液凝固的变动的研究，日病会志，33，403-405，1943。
- 〃 17 荒武富雄：実驗的貧血時に於ける歯髓内造血，在實驗性貧血时歯髓内造血，日病会志，33，306-307，1943。
- 〃 18 山松生：酸中毒の実驗的研究第2血液象の変化，酸中毒的実驗研究，第2報，血液象の変化，日兽师志，6，11：405-407，1953。
- 〃 19 海外文献抄：豚の水腫病，猪の水腫病，兽畜新報，215，38，1957。
- 〃 20 田中隆夫等：側枝血行の実驗的研究，关于側枝血行路的実驗的研究，日病会志，47，3，429，1958。
- 〃 21 吉井恒雄等：所謂無脉病の剖検例，所謂無脉病二例報告，日病会志，47，3，437，1958。
- 〃 22 迎英明等：高血圧症に於ける細小动脉病変の再検討，高血圧病時細小动脉病変の再商討，日病会志，47，3，474，1958。
- 〃 23 島峰徹：后天性溶血性貧血について，后天性溶血性貧血的研究，日病会志，47，3，444，1958。
- 〃 24 滝井方道等：漿細胞に於ける研究(第八報)，关于漿細胞的研究(第8報)，

- 日病会志, 49, 3, 577, 1958。
- 〃 25 潤耕一等: 蜘蛛膜下出血の病理解剖学的研究(第6報)脳底部動脈瘤の发育について, 脳蜘蛛膜下出血的病理解剖学的研究(第6報), 关于腦底部動脈瘤的发育的研究。日病会志, 47, 3: 431, 1958。
- 〃 26 卷茂夫等: 実験的高血圧による致死性動脈炎について, 关于実験性高血圧病致死性動脈炎的研究, 日病会志, 47, 3: 430, 1958。
- II. -0001 大家武夫: 腦組織再生ニ关スル実験的研究, 关于腦組織再生的實驗研究, 日病会志, 15, 128, 1925。
- 〃 2 中条資俊: 組織性肥脾細胞ノ研究補遺(第2報), 組織性肥脾細胞的补充研究(第2報), 日病会志, 19, 487, 1926。
- 〃 3 中島義夫: 組織肥脾細胞の研究, 关于組織肥脾細胞的研究, 日病会志, 17, 131, 1927。
- 〃 4 有本 廉: 痢痕組織中に于ける末梢神經再生ニ關する実験的観察, 附, 起炎物質注入に因る末梢神經変性後の再生ニ就て, 关于瘧痕組織中末梢神經再生的實驗的觀察, 附: 由注入发炎物質而引起末梢神經变性后的再生的研究, 日病会志, 17, 434, 1927。
- 〃 5 寺島清七: 末梢神經再生ニ關する研究補遺, 附: 終末再生續報。关于末梢神經再生的补充研究, 附: 終末再生續報, 日病会志, 17, 451, 1927。
- 〃 6 武居市重: 諸種鹽類の生体内輸入の皮下網狀織内被細胞系統の墨粒貪噬機能及ぼす影響ニ就て, 关于各种鹽类在生体内注射引起皮下网狀織内被細胞系統對墨汁顆粒吞噬机能的影响。日病会志, 26, 343, 1936。
- 〃 7 木下良順等: 間葉組織反応, 日病会志, 33, 54-56, 1943。
- 〃 8 佐佐木仁一等: 肉芽組織の新生血管について, 关于肉芽組織的新生血管問題, 日病会志, 47, 3, 408, 1958。
- 〃 9 濱田良二 等: 肺泡細胞増生ニ關する基礎的研究(正常肺泡の電子顯微鏡的研究), 关于肺泡細胞增生的基础的研究(正常肺泡的电子显微鏡検査), 日病会志, 47, 3, 489, 1958。
- II. -0001 小喜田晴雄: 粘膜系統ニ泛發セル“炎症性腫瘍様組織”一例, 附極メテ稀ナル心臓畸形ニ就テ。常发于粘膜系統的“系統性腫瘍样”細胞的一例。附: 極罕見的心臟畸形。日病会志, 14, 385-390, 1924。
- 〃 2 高村莊太 : 赤血球貪噬作用ニ就テ, 关于紅血球貪噬作用, 日病会志, 14, 261-202, 1924。
- 〃 3 久保久雄: 性質の異ニスル病変増殖組織相互間ノ関係, 不同性的病変増殖組織相互間的关系。日病会志, 15, 643, 1925。
- 〃 4 犬 儒夫: 炎性滲出の研究(第一)滲透圧及び酸の体液移動に及ぼす影响ニ就テ。眞性滲出的研究之一, 滲透压及酸对体液移动的影响。日病会志, 17, 141, 1927。
- 〃 5 本田偉志雄: 肋膜炎ニ關する実験的研究, 关于胸膜炎的實驗的研究, 日